

「そのかたは、よみがえられた」

詩篇 第126篇1節～6節
ルカによる福音書 第24章1節～12節

説教 岡村 恒牧師

「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」(6節)。間違っただけで、主イエスのご遺体を探していた女性たちに、神の御使いがそう言いました。私たちが日常生活でよく経験するように、捜し物を探す時には、正しい場所を探す必要があります。間違っただけでいくら探してもムダに終わるからです。

マグダラのマリヤや女性たちは、主イエスのご遺体をきちんと埋葬するために、この朝、墓に向いました。ほんの三日間、主イエスが十字架の上で息を引き取ったお姿も、そのお体が布で巻かれて墓に埋葬される場面も、この女性たちは最後まではっきりと見届けました。深い悲しみと絶望をかみしめて二晩を過ごし、日曜日の朝早く、主イエスのご遺体を丁寧に埋葬し直すために香料を持って墓に向かったのです。

ところが、墓の入り口の大きな石がとりのけてありました。驚き恐れながら墓に入ってみると、そこにあるはずの主イエスのお体がありません。「途方にくれていると」(4節)、輝いた衣を着た二人の人が現れて、「そのかたは、ここにはおられない。」と言うのです。

私たちはしばしば、いやほとんどいつも、間違っただけで捜し物を探します。自分の人生を支え、この自分に命を与え、何があっても支え、慰めてくれる存在や、立ち上がらせてくれる一つの言葉。そういったものを捜しに捜しながら、繰り返し失敗し、絶望してしまいます。主イエスの弟子たちやマリヤたちもそうでした。主イエスのお言葉を繰り返し聞き続け、奇跡を目にしながら、本当の主イエスに出会うことができないままで過ごしてきました。今日でも、多くの方が主イエスに出会いたいと願いながら、墓をのぞきこんで、主イエスの死体を探しています。そして、主イエスが残した言葉に触れ、その業績の痕跡に触れるだけで終わります。しかし、主イエスは墓にはおられないのです。

御使いたちの言葉を聞いて、女性たちは主イエスのお言葉を思い出しました。そして弟子たちのところに帰って行って伝えました。主イエスはよみがえられて、今生きておられると。弟子たちはこれを「愚かな話」と思いました。

今日、私たち自身も、この弟子たちと同じ失敗をします。主イエスを墓に捜し、もう死んでしまった過去の存在であるかのように、主イエスのことを考えます。主イエスがよみがえられ

て、今も生きておられることを愚かな話だ思い、まるで主イエスが自分の人生のどこにもおられないかのように生きようとします。

弟子たちは、復活された主イエスに出会い、「わたしだ」と言われる言葉を聞き、一緒に食事をしてようやく、主イエスが生きておられることを確認しました。さらにその上で、主イエスの霊、聖霊を受けて初めて、主イエスが確かに私たちの救い主であり、世の終わりに再び来て下さることを知るようになりました。かつて、間違っただけで主イエスを探していた者たちが、自分の人生の中心に、生き生きと生きておられる主イエスを発見することになったのです。

今日、3人の兄弟姉妹が罪の赦しの洗礼を授けられ、1人の姉妹が信仰告白をして主の食卓の一員となります。神によって死人の中から引き上げられたお方が、私たちのただ中に生きておられることを、私たちはこの食卓で、この兄弟姉妹方と一緒に確認します。午後、墓地に出かけて行って愛する者を葬る時も、そこが復活の栄光に輝く場所に変えられることを信じるので、確かな希望を抱いて主を賛美します。

主イエスを、死人の中からよみがえらせて下さったお方が、やがて終わりの日、主を信じる者を同じように引き上げて下さることは確かです。罪を告白して洗礼を受ける者には、聖霊が賜物として注がれ、主イエスご自身が一人一人の中に宿って共に歩いて下さいます。洗礼を受ける時、それまで生きてきた罪人が葬られ、主イエスの命を頂いて新しく生まれ、生き始めるのです。その人は、神の目に高価で貴い存在として映され、命の書に名を記された者として地上の旅を歩み始めるのです。

ただ神の憐れみと恵みとによって、神の国を受け継ぐ者として生きる。この命の道に、すべての人が招かれています。誰でも、主イエスを信じる者は、たとえ死んでも生きるのです。主イエスは、私たちのために十字架の上で死んで、墓に葬られたお方です。しかし、主イエスは死人の中にはおられません。神によって引き上げられ、今、生きておられます。私たちに信仰を与え、私たちが永遠の命を生きるようになるために、主イエスは今も私たちのためにとりなし、働いておられます。

(記 説教要約担当者)

